

Weekly report



株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都東京都千代田区神田神保町3-29-1

為替週間展望 = ドル円は軟調な流れが継続か

[4月12日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		4月5日～4月9日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	110.67	110.75(5)	109.00(8)	109.43	-1.26
ユーロ・ドル	1.1759	1.1927(8)	1.1738(5)	1.1891	+0.0132

=====

国内株・金利 / 米国株・金利				
	終値	前週末比	終値	前週末比
日経平均株価	29,768.06	-85.94	日本10年債利回り	0.108 -0.018
ダウ平均株価	33,503.57	+350.36	米10年債利回り	1.619 -0.102

=====

<来週の主要経済統計等>

- 12日 英2月鉱工業生産指数、英2月製造業生産指数、英2月貿易収支
ユーロ圏2月小売売上高
米3月財政収支
- 13日 中国3月貿易収支
独4月ZEW景況感指数
米3月消費者物価指数
- 14日 日本2月機械受注高
NZ準備銀行(RBNZ)政策金利
ユーロ圏2月鉱工業生産指数
米3月輸入価格指数
米地区連銀経済報告(ページブック)
- 15日 豪3月雇用統計
独3月消費者物価指数
カナダ2月製造業出荷
米新規失業保険申請件数
米3月小売売上高、米4月NY連銀製造業景気指数
米4月フィラデルフィア連銀景況指数
米3月鉱工業生産・設備稼働率
米2月対米証券投資
- 16日 中国第1四半期国内総生産(GDP)
中国3月鉱工業生産指数、中国3月小売売上高
スイス3月生産者・輸入価格
ユーロ圏2月貿易収支、ユーロ圏3月消費者物価指数確報値
米3月住宅着工・許可件数
カナダ2月卸売上高
米4月ミシガン大学消費者信頼感指数速報値

【前回のレビュー】ドル円は上昇が続いてきたことで、テクニカル面での過熱感も台頭しつつあるが、米長期金利の先高観などを背景に底堅く推移して、一段と上値を迫る可能性が高いとみられる。111円を突破して、さらに上値を試す展開になるとした。

【米長期金利の上昇一服でドル円は上値が重い】

5日と6日の米国市場では、米10年債利回りが低下した。5日に1.70%前後まで低下して、1.656%前後となり、1.70%を割り込んだ。これまでの短期間で長期金利上昇は行き過ぎとの見方が広がったことも背景にあるようだ。ドル円は5日の110円台後半から、5日には109円台後半まで下落している。

その後も米10年物国債利回りは1.62～1.68%前後で落ち着いた動きを見せている。8日には1.62%台まで低下しており、ドル円は109円近辺まで下落した。その後、9日には下げ渋りを見せて、109円台前半で推移している。

7日に発表された3月16～17日開催分の米連邦公開市場委員会（FOMC）議事要旨では、「雇用の最大化や物価の安定に進展がみられるまではしばらく時間がかかる。新型コロナウイルスにより、先行きは不透明」などと、米連邦準備制度理事会（FRB）が従来からの慎重姿勢を堅持していることが示された。

また、「利回り上昇は経済見通しの改善を反映」としているものの、これまでの見解を確認するような内容にとどまり、今後の利上げや量的緩和の縮小（テーパリング）につながるようなヒントは特に示されなかった。議事要旨を受けて、米国株もドル円も目立った値動きにはつながらなかった。

8日に開催された国際通貨基金（IMF）のパネル討論会で、パウエルFRB議長は、「物価上昇は加速しても一時的」「持続的なインフレとはならない」との認識を示した。これまでの主張を踏襲する発言となっている。

5日発表の3月の米ISM非製造業景況指数、3月の米サービス業PMIなど予想から上振れする経済指標が発表されても米長期金利は影響を受けにくくなっている。米長期金利の動きは米国の景気回復や経済指標の改善をかなり織り込んできたとみられ、上昇しにくくなっている。

今年2月以降のドル円の上昇局面では、21日移動平均線がサポートとなり、調整局面では下値を支えてきた。8日に21日移動平均線を割り込んでおり、短期間で同線を回復できないようだと、修正安局面に転じる可能性が高まろう。米後期金利の上昇一服もあり、ドル円は軟調な流れが続くとみられる。ドル円の目先の予想レンジは、107.50～109.75円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、12日に米3月財政収支、13日に米3月消費者物価指数、14日に日本2月機械受注高、米3月輸入価格指数、米地区連銀経済報告（ページブック）、15日に米新規失業保険申請件数、米3月小売売上高、米4月NY連銀製造業景況指数、米4月フィラデルフィア連銀景況指数、米3月鉱工業生産・設備稼働率、米2月対米証券投資、16日に米3月住宅着工・許可件数、米4月ミシガン大学消費者信頼感指数速報値などがある。

【ユーロドルは戻り一服後はもみ合いか】

米長期金利の上昇の流れが一服して、ドル買いの流れも反転しており、ドルは売られやすくなっている。こうした動きを受けてユーロドルは戻り歩調で推移して、1.19台前半まで上昇した。21日移動平均線を超えてきている。今年2月以降、ユーロドルは21日移動平均線の上での滞空時間が短く、上昇が継続しにくくなっている。

こうした中、ユーロドルは戻り歩調が続いて1.20ドル近辺まで上昇したとしても、その近辺では上値を抑えられてもみ合いに転じる可能性が高いとみられる。なお、大幅な崩れは想定しにくく、現在の価格を挟んでの一進一退の動きが見込まれる。ユーロドルの目先の予想レンジは1.1750～1.2000ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、12日に英2月鉱工業生産指数、英2月製造業生産指数、英2月貿易収支、ユーロ圏2月小売売上高、13日に中国3月貿易収支、独4月ZEW景況感指数、14日にNZ準備銀行（RBNZ）政策金利、ユーロ圏2月鉱工業生産指数、15日に豪3月雇用統計、独3月消費者物価指数、カナダ2月製造業出荷、16日に中国第1四半期国内総生産（GDP）、中国3月鉱工業生産指数、中国3月小売売上高、スイス3月生産者・輸入価格、ユーロ圏2月貿易収支、ユーロ圏3月消費者物価指数確報値、カナダ2月卸売売上高などがある。

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。